

脱線、ずさん整備で

JR北 安全委が中間報告

2014.3.1 朝日

昨年9月にJR函館線で起きた貨物列車の脱線事故について、運輸安全委員会は28日に公表した中間報告で、JR北海道のずさんな整備と脱線との因果関係を国の機関として初めて認定した。同社は安全意識の甘さを改めて謝罪した。

報告書によると、大沼駅（北海道七飯町）の脱線現場は緩い左カーブ。昨年6月の検査時点で、左右のレールが枕木とともにカーブの外側に最大70ミリずれていた。約20日にわたって局所的にカーブがきつくなり、列車通過時にカーブ外側に強い圧力がかかって、レール幅は最大で40ミリ拡大。レールを枕木に留める釘が緩み、貨物列車が通った時にレールがぐらついて脱線したとみられるという。

整備が必要となる基準値は、レールのずれ、幅とも

に19ミリだったが、過去3年間の整備記録にはレールや釘を補修した記録はなかった。報告書は、整備を怠ったことが「事故に大きく関係した」と指摘した。

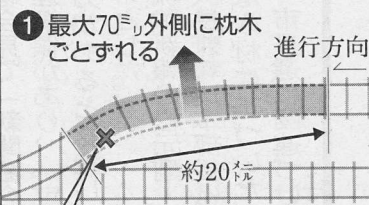
JR北海道の小山俊幸・鉄道事業本部長は報道陣の取材に応じ、「乗客や荷主に多大な迷惑をかけ、改めておわびする」と謝罪。補修を3年間していなかった点については、「整備基準値に対する認識がなかった。要員も十分でなかった」との反省を口にした。

同社関係者によると、一部の現場では人手不足を背

景に、整備基準値を超えていても「許容範囲」として放置する雰囲気があったという。自分の職場でも放置があったというベテラン社員は「（大沼では）ちょっとずつ放置していたら3年経っていたのだろう。どこでも起こりえた事故だ」と自戒を込めて話した。

（工藤隆治、石橋亮介）

函館線脱線事故のメカニズム



脱線地点

